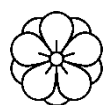


「児童理解と合理的配慮のために」

発音の誤り

—未熟な音編—



青梅市立河辺小学校
ことばときこえの教室

東京都青梅市河辺町5-24
0428-22-2103

WEB



○発音の誤りってどんなこと？

ことばの教室に通う児童に見られる発音の誤りは、大きく分けて二つあります。

未熟な誤り：口周りの器官が未発達で、正しい音を身に付けられていない。

特殊な癖がついた誤り：特殊な舌の使い方を身に付けたために、正しい音が出せない。

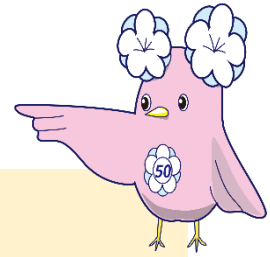
一般的に、未熟な誤りの方が、改善が早い傾向にあります。

しかし、マヒなどがない場合は、どちらでも練習次第で改善していくことができます。

→ 今回は、「未熟な誤り」について扱います。

○未熟な発音の誤りってどんなこと？

★音が置き換わってしまっている。



さかな → たかな、しゃかな

かに → たに

らくだ → だくだ

サ行が、タ行・シャ行
カ・ガ行がタ・ダ行
ラ行がダ行はよく見られます

★子音が省略されてしまう。

てれび → てえび

はっぱ → あっぱ

れの「R」、はの「H」が抜けて、
母音だけが残っています。

TE R EBI

○未熟な音になってしまう原因は？

★正しい音を獲得する発達途上にあり、正しい発音をまだ習得していない。

人間は、生まれたときから全ての音が言える訳ではありません。体の発達に合わせて、母音やマ行・パ行などの出しやすい音から順に獲得していきます。発達には個人差があるので、周囲の児童に比べて発達がゆったりしているだけの可能性があります。もしかしたら、時間をおくことで自然に改善することも考えられます。幼児さんの段階で専門家に発音について相談しても、「様子を見ましょう」と言われることがあるのは、こうした理由があります。

★正しい発音とは違う舌の位置で音を出すことが習慣化してしまっている。

上記のように、発音は順に獲得していくものですが、時折獲得前の発音方法が定着してしまって、なかなか正しい音が出せないという場合があります。今まで使っていた舌の位置とは、異なる位置、使い方で音を出すということを教える必要があります。

★体の動きや口周りの動きが不器用で、思い通りに動かすことが難しい。

私たちは、舌や口の細かい操作で発音し、それを音ごとに瞬時に変化させて話しています。簡単なようですが、少し位置がずれただけでも違う子音になってしまう微細な運動です。手先が不器用なことと同じように、口周りを動かすことに不器用さが見られる児童がいます。また、微細運動と粗大運動は繋がっているので、体全体の動きが苦手な児童は、細かい動きも苦手になりがちです。改善しやすい未熟な発音ですが、不器用さが大きいと時間がかかることがあります。

★耳で自分の発した音を聞いたり、音のイメージを捉えたりする力が苦手。

人間が話すときは、無意識に自分の発した音を自分で聞いて、調節しています。聞く力や、音のイメージを捉える力に苦手さがあると、自分が発した音が正しい音なのか、苦手な音なのかの判別が難しく、発音の改善に時間がかかることがあります。

○どんなことで困るの？

- ・ 話した相手に正しく伝わらなかったり、何度も聞き返されたりする
- ・ 発音の誤りを指摘されたり、からかわれたりして嫌な思いをする
- ・ 発音の誤りを自覚し、発表に不安を感じたり、話すことを控えたりするようになる
- ・ 自分の発音の誤りに影響され、文字の表記にも書き誤りが出る場合がある
- ・ 誤った方法で練習させると、余計に変な発音の癖を身に付けてしまう場合がある



発音の練習は専門機関で行い、決められた宿題等以外の場面では、発音の誤りは指摘しない方が良いでしょう。特に小さいころは、発音の改善よりも、話すことの楽しさを味わわせてあげることが大切です。

○先生にお願いしたいこと

安心して話せるような環境作りが大切です。発音の練習は通級に任せていただいて、気持ちよく過ごせるような環境作りにご協力ください。

★発音の誤りについては指摘せず、内容について評価する。

正しい発音方法を学習して身に付けるまでは、自分でいくら気を付けても、正しい発音はできません。その状態で無理に正しい音を言わせようとしても、かえって改善しづらい誤った発音を身に付けることにつながります。発音の誤りについては指摘せず、気持ちよく過ごせるよう見守ってください。また、音読や発表では、発音の誤りによって伝わりづらくなる場合がありますが、ぜひ発表の内容や頑張った態度を評価していただき、発音の誤りを評価対象とすることは無いようにしてください。

★自然と正しく復唱し、正しい音を耳から聞かせるようにする。

誤りを直接指摘はしませんが、正しい音を耳から聞くという経験は、発音の改善に大変有効です。例えば、力行がタ行に置き換わる児童が、「動物園でチ(キ)リンみたの！」と話していた場合、「キリンを見たの？すごいね！」などと、誤った言葉をさりげなく正しい音で復唱して聞かせることが大切です。

★周囲がからかったり、指摘したりしない環境を作る。

発音のみならず、日頃から人をからかうことがないようにクラスへの指導をお願いします。児童によっては、悪気なく「間違ってるよ！」「どうして間違えるの？」などと教えたり、聞いたりしてしまう事例もあります。ことばの教室で頑張っていることも、本人と相談しながら必要に応じて伝えていただき、クラスの理解を深めていただけたら幸いです。



○通級ではこんなことをしています

【口や舌の体操】

発音で使う口や舌の筋肉を鍛えたり、思い通りに動かしたりする練習をします

【聞き分ける力を付ける練習】

誤り音と正しい音を聞き分ける練習をして、自分の発音を聞けるように練習します

【音作りの練習】

段階的に、正しい音の出し方を学習し、練習します

【定着の練習】

学習した正しい発音を日常的に使えるよう、音読や会話で発音に意識を向ける練習をします

<参考文献>

- ・はじめのいっぽ 2021 [構音指導]【全国公立学校難聴言語障害教育研究協議会, 2021】
- ・構音障害の臨床—基礎知識と実践マニュアル—【阿部雅子, 金原出版】